

### 13 I-123 IMPの肺内動態の検討

坂坂美代子, 池田英樹, 高橋敬治, 安井昭二, 高橋和栄\*  
駒谷昭夫\* (山形大学医学部第1内科, \*放射線科)

近年 I-123 IMP の肺疾患診断への応用が試みられている。しかし肺内残留の機序は明らかにされていない。そこで我々は I-123 IMP の肺内動態の検討を行なった。

I-123 IMP (1.5 mCi) を静注, 約 40 分後に気管支肺胞洗滌を施行した。同時に静脈血を採血した。洗滌液及び血液の I-123 IMP を well カウンターにて測定した。

洗滌液及び洗滌液細胞に血液より多くの I-123 が存在した。体積比から肺胞腔内細胞に高濃度に集積していた。

従来肺内での I-123 IMP の動態に関しては肺毛細血管内皮機能だけが注目されていた。しかし今回の検討から I-123 IMP が肺胞腔に能動輸送されていると推察された。すなわち I-123 IMP の肺内動態には肺胞上皮細胞及び肺胞腔内細胞の関与の大きいことが知られた。

### 14 肺癌における $^{123}\text{I}$ -IMP 肺シンチグラフィの検討

—X線CTおよび  $^{67}\text{Ga}$  シンチグラフィとの対比—  
今井昭彦<sup>1</sup>, 大石 元<sup>1</sup>, 吉村 均<sup>1</sup>, 筒井重治<sup>1</sup>, 堅田 均<sup>2</sup>,  
渡辺裕之<sup>2</sup>, 福岡和也<sup>2</sup>, 成田亘啓<sup>2</sup>, 飯岡壮吾<sup>3</sup>, 東条 尚<sup>3</sup>,  
(奈良医大腫瘍放射線科<sup>1</sup>, 第二内科<sup>2</sup>, 第三外科<sup>3</sup>)

肺癌12例14病変に  $^{123}\text{I}$ -IMP 3mCi を静注し、直後、24時間後に撮像し、ほぼ同時期に施行した胸部レントゲン、X線CT、 $^{67}\text{Ga}$  シンチグラフィと比較検討を行った。

$^{123}\text{I}$ -IMP では、静注直後は全例欠損示し、24時間後では12病変で腫瘍周辺と思われる部位に集積を認め、 $^{67}\text{Ga}$  シンチグラフィとは全例集積パターンが異なっていた。また24時間後に集積を認めた12病変にはX線画像上二次性陰影が認められた。

$^{123}\text{I}$ -IMP 肺シンチグラフィは  $^{67}\text{Ga}$  シンチグラフィとは集積機序が異なり、腫瘍と付随病変との鑑別に有用と考えられる。

### 15 I-123 IMP エロソールによる肺吸入シンチグラフィの検討

小須田茂, 河原俊司, 田村宏平, 久保教司, 橋本省三,  
(国立大蔵 放、慶応大 放)

脂溶性物質である IMP の肺上皮透過性について基礎的並びに臨床的検討を行い、水溶性物質である DTPA と比較検討を行った。

超音波ネブライザー (デビルピス) により I-123 IMP をエロソール化し、坐位にて3分間、経口的に吸入させ、背臥位にて60分間、シンチカメラで1分ごとのイメージを撮像した。一週間以内に Tc-99m DTPA による肺吸入シンチを行い、比較した。

I-123 IMP の肺よりのクリアランスは良好で、病変部 (放射線肺炎、肺線維症) では肺上皮透過性亢進を示唆する所見が得られ、Tc-99m DTPA と極めて類似した結果が得られた。